

株式会社ジェイコム大田

放送番組審議会 議事録

平成 28 年度（2016 年度）株式会社ジェイコム大田番組審議会は、2017 年 5 月 15 日(月) 大田区産業プラザにて開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席

片山 篤栄 様
佐藤 佳代子 様
千 葉 茂 様
平本 隆司 様
渡部 満智子 様
桑田 健秀 様
小山 君子 様
政木 純也 様

ご欠席

倉 持 武 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：千葉会長

■ジェイコム大田の歩み

委員

ジェイコム大田は 20 周年を迎え、よりの確な番組作りをされていると感じている。
SNS などの新しいメディアとの融合も積極的に行っており、感心している。

■取材の範囲と対象について

委員

スポーツクラブに通っているが、コミュニティチャンネルに興味のある年配の方が非常に多いと感じる。

出演できることが楽しみようで、「誰が映っていた」とよく話題に上っている。

最近の民放はニュースもドラマも代わり映えないので、J:COM への需要が高まっているのではないかな。

制作費などの問題もあるだろうが、もっと大田区の人や話題を長く紹介するとファンが増えるはず。

事業者

J:COM として、地域の方により多く出て頂くのがコミュニティチャンネルの使命だと思っている。

そのことを常に意識して取材しており、大田区発信の話題を多く取り上げるよう心がけている。

委員

J:COM でお店が紹介されると人だかりがでかたりと、情報収集ツールとして浸透していると感じる。

■「デイリーニュース」について

委員

働く女性が増えている昨今、幅広い年齢層が視聴できる放送時間を模索する必要がある。

初回オンエアの 18 時～ではちょうど夕飯の支度時間と被ってしまい、働く女性とはとても見られない。

その時間に帰れる男性も多くはないはずなので、視聴層は高齢の方に偏ってしまうのではないかな。

せっかく内容の濃い、良質な番組を放送しているのに見るできないジレンマがある。

事業者

「デイリーニュース」は『その日の出来事』をお伝えする番組なので、当日取材した話題を出すのが信条。

取材後に編集作業が入るため、18 時が最も早く視聴者に届けられる時間となる。

初回オンエアでご覧になれない方のために 20 時 30 分、23 時 30 分から再放送を行っている。

いろいろな方の意見を伺いながら現在の放送時間に調整しているが、ニュースの性質として翌日の再放送は行っていない。

新たに導入した J:COM の地域情報アプリ「ど・ローカル」では過去 1 週間分の「デイリーニュース」が配信されているので、是非活用して頂きたい。視聴者から多く寄せられる『今日のニュースに出ていたが見逃した』という声にも応えられるようになった。

委員

区役所のロビーで開催している「フライデーコンサート」の司会を務めた際に取材して頂いたが、街で声をかけられる機会が増え、多くの方がご覧になっていると実感した。

「J:COM で見かけたから来てみた」と、コンサートに足を運んで頂いたご年配の方もいらっしゃった。

■地域情報アプリ「ど・ローカル」について

事業者

J:COM が配信しているアプリ「ど・ローカル」のアーカイブ機能は、リピート放送の代わりになっている。

自分が映っているか探してみたり、お気に入りの映像を繰り返し見たりと、使い方は様々。

また、コミュニティチャンネルはどうしてもエリアに紐づいているため、引っ越すと地域番組は見られなくなってしまいが、かねてよりあった『以前暮らしていた地域の番組が見たい』という要望にも応えることができた。

いろいろな形でネットワークを活用していければと考えている。

■ 他社ケーブルテレビとの映像共有

委員

商店街でイベントを催した際、他社ケーブルテレビが取材に来たので取材映像をデータで頂いた。

この映像は J:COM でも放送されるのだろうか？

事業者

残念ながら自社系列ではない会社の映像を J:COM で放送することはできない。

ただ、今後は他社ケーブルテレビが映像の共有に賛同して頂けたら、アプリ「ど・ローカル」を通して全国のケーブルテレビの番組が見られる時代が来るかもしれない。

■ 視聴習慣を意識した編成

委員

作り手側の『今日のニュースを新鮮なうちに放送したい』という気持ちはわかるが、今の時代では視聴者の生活リズムとマッチしていないように感じる。ニュース番組でさえ『〇時にはニュースを見る』というポリシーがない方はチャンネルを回さないだろう。

例えば、ニュースを視聴することが習慣となっている方であれば、19 時に NHK のニュースを見ることが多い。だが、NHK は 21 時からニュースの放送があるので、19 時に J:COM が地域のニュースを放送すると効果があるのではないか。19 時に身近な話題や地域行政の動向を知るため J:COM を回し、21 時から全国や世界で起きている広い事象を知るために NHK にチャンネルを合わせる…といった視聴習慣を作ることができる。テレビ視聴に対して意識の高い人に配慮ある編成を希望したい。

■ 地域スポーツとの取り組み

委員

J:COM のコミュニティチャンネルにとって地域スポーツが大きな軸となっていることは喜ばしい。メディアとの関係性に対して意識の低いスポーツ選手も多いが、ローカルメディアは重要なコミュニケーションツールとなり得るので、取材などに協力していくことが大切。スポーツ業界は個人主義に陥りがちで組織的に PR していくことが苦手だが、ローカルに目を向けることが重要。

■リオオリンピック・パラリンピックの放送報告に関して

委員

地域スポーツに携わって 17 年になるが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックがスポーツ界へ与えるインパクトが非常に気になっている。かつての五輪とは異なり、成熟社会へどのような影響があるのか？

元オリンピックとして、都や区に直接 提案できる立場として、地域に対して何ができるのか考えていきたい。

また、パラリンピックも同時に開催される中、パラリンピックに対する視点も必要ではないか。

パラリンピック委員会は選手の実技を子供たちに見てもらうなど、地域との取り組みも行っている。

選手の中には生死の境目を彷徨ってなお、スポーツと向き合っている方もいる。そうした決意や姿勢は見る者の心を打つし、多感な子供の教育にも良いと思う。

■J:COM のネットワークについて

委員

J:COM が持つ東京都域や全国へのネットワークは、地域に根差したスポーツや過疎地域の選手がメディアに露出する手助けとなるだろう。

従来の媒体にとってスポーツは勝ち負けの世界。強くなければ取材や放送は行われないが、コミュニティチャンネルではトップに行けない子供たちや高齢者スポーツなどにもスポットを当てることができる。地域の活性化にも役立つだろう。

■技術力の強化と新たな試み

事業者

コミュニティチャンネルをご覧になっている方が増えたことで大きな自信になると同時に、見る側の立場や見たいと思う気持ちに寄り添う大切さを実感している。技術力や制作力、編成など様々な側面で応えなければいけない。SNS 含め、J:COM の新しい技術により可能になった事案も数多くあるので、期待を裏切らないようにしっかりと実現していきたい。今後ともご支援とご協力を賜れるよう努めていく。

以上